

日本福祉大学

授業科目概要ガイドライン

(2025年度版 第1刷)



日本福祉大学
美浜事務室・半田事務室・東海事務室

2025年10月16日 時点

■ 目次

<u>1. 授業科目概要作成方針</u>	P. 1
<u>2. 各項目の記入上の注意点</u>	P. 3
<u>3. 各学部のディプロマポリシー一覧</u>	P. 5
<u>4. 学習目標の入力時の補足資料</u>	P. 14
<u>5. 成績評価方法の入力時の補足資料</u>	P. 16
<u>6. 授業科目概要を変更する際に連絡の必要な資格一覧</u>	P. 18
<u>7. 授業科目概要に特別な記載方法のある科目について</u>	P. 19
<u>8. ゲスト講義申請について</u>	P. 22
<u>9. nfu.jp へのログイン方法</u>	P. 24
<u>10. 前年度の科目概要複写</u>	P. 25
<u>11. 科目概要入力マニュアル</u>	P. 26
<u>12. 目標登録と振り返り入力</u>	P. 33
<u>13. ログアウト方法、問い合わせ</u>	P. 36

■ 授業科目概要作成の基本方針について

1. シラバス＝授業科目概要とは

各科目の詳細な授業計画をいい、一般的にはシラバスといわれるものです。大学設置基準第25条の2にその必要性の根拠があり、本学では、各種法令や主務官庁の指導等を踏まえて、科目名と科目に関する基本情報(単位数、学年配当、開講期間、担当教員)に、①テーマ、②キーワード、③内容の要約、④学習目標、⑤授業の流れ、⑥学ぶ上での注意事項、⑦事前事後の学習内容と時間数、⑧関連科目、⑨成績評価の方法、⑩テキストの10項目で構成されています。

これに加えて学生向けに開示されない関連情報としての⑪備考欄と⑫講義推薦図書の2つの任意入力項目が設定されています。

(成績評価基準等の明示等)

第二十五条の二 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

2. シラバスの位置づけ・意味合い

1) 授業に関する履修者との「契約書」

シラバスは、当該科目の履修の有無を判断する際の基本情報であり、学生は記載された内容に基づき履修登録という意思表示を行っています。その点でシラバスは履修者との「契約書」に他なりません。科目担当教員はシラバスの記載内容に沿って授業を進めて学習目標の達成に導いた上で、シラバスの「成績評価の方法」に示した成績評価基準通りに評価して単位を付与することが基本となります。

特に試験等の成績評価に関して、シラバスに記載された内容と違う形で行った場合、履修者と科目担当教員・大学との間で大きなトラブルに発展することがありますので、試験の案内や成績評価の際には今一度ご自身で執筆されたシラバスをご確認ください。

2) 教育課程の管理ツール

本学ではカリキュラム検討の際に、カリキュラムマップを用いてDPとの対応関係を見ながら、それぞれの科目を配置した上で、科目担当教員には対応DPと整合性のとれたシラバス作成をお願いしています。以降、科目担当教員が変更する場合であっても、教育課程全体として一貫した学習内容を提供する観点から、当該科目の基本事項について大幅に変更することはないという前提に立っています。特に学習目標については、DPや前担当者のシラバスを踏まえて、設定をお願いします。(不明な点は教務委員または教務事務担当者までお問い合わせください)

3) 教育課程に対する基本的かつ重要な点検事項

外部の教育課程に対する評価（設置認可申請、私学事業団補助、各種資格・免許の課程認定、認証評価等）に際して、シラバスは科目単位レベルの重要な点検事項として位置づけられており、問題のあるシラバスは指導対象となります。

こうした諸々の点検評価の観点から、各科目の記述内容の修正を依頼する場合があります。

シラバス上で点検を受ける事項（主な例）

- ・学習者のアウトカム（何々ができるようになる）を意識して学習目標が設定されているか。
- ・必要な教育内容が網羅されているか。
- ・能動的な学習ができるような教育方法の工夫がこらされているか。
- ・科目ごとに事前事後学習が担保されているか。
- ・厳格な成績評価基準が設けられており適切に単位を付与しているか。

3. シラバスに関する一般的な注意事項

①漏れなく記載すること

本学がシラバスに設けている項目は、大学固有の基準で設定したものではなく、各種法令等のシラバスの要件や点検項目を踏まえて定めたものです。未記入項目や科目間での記載内容の精粗があまりに大きい場合は外部の評価の際に問題となるケース(*)がありますので、目安となる字数（P.3）を参照の上、漏れなく記載してください。

(*)実習科目における「授業の流れ」の記述など、そもそも所定様式上での記述が困難な場合はその限りではありません。

②授業運営上の担当教員の裁量

シラバス記載内容の遵守を基本としつつも、例えば履修登録学生の学力レベルが想定より大きく異なった場合、科目担当教員の裁量の範囲で授業進捗をやむを得ず落とす（あるいは速める）ことや、テキストの選定を授業開始後に履修者のレベルを見た上で案内することはありえます。その際には初回授業や nfu.jp スタディの科目掲示板を通じて、シラバスに記載した授業進捗を変更する（場合がある）旨を履修学生全体に周知してください。またテキストを授業開始後に案内する際には当該テキストの出版状況等を十分にご確認ください。

その他にシラバスに記載した内容以外の対応をとらざるをえない場合は、学部教務委員または教務事務担当者までご相談ください。

③記載内容に関する科目担当教員の裁量制限と内容の維持（一部科目）

学部の設置認可（いわゆる年次進行中の教育課程）や、各種資格・免許に係る科目については、あらかじめシラバスを主務官庁等に届け出ており、その内容に沿って授業を行うことが義務づけられている場合があります。該当する科目については、シラバスの記載内容が事前に定められており、科目担当教員の裁量も通常の科目より大きく制限されません。記述の固定部分や制限の範囲はそれぞれの申請内容により異なりますので、あらかじめ教務委員または教務事務担当者よりご相談をさせていただきます。（P.18 参考）

■ 各項目の記入上の注意点

項目		字数	入力	内容
① テーマ		一文程度 120文字以内	必須	■ 科目内容に関わるテーマを設定し、お書きください。
科 目 の ね い	② キーワード	1項目 50文字以内	必須	■ 【キーワード】の欄に、科目のキーワードを2つ～5つお書きください。
	③ 内容の要約	200字以内	必須	■ その上で、科目内容の要約を分かりやすくお書きください。
	④ 学習目標	1項目 100文字以内	必須	■ <u>PP.14-15「学習目標の入力時の補足資料」をご参照ください。</u> 入力時のフォーマットに目指すべき学習目標の欄に科目に関係するディプロマ・ポリシーが(学部・学科・専修ごとに)表示されるようになっておりますので確認の上、設定してください。 ※表示がない場合、ディプロマ・ポリシーが不明な場合は、各学部にお問い合わせください。
⑤ 授業のながれ		1項目 100文字以内	必須	■ 半年間または1年間の授業の流れや授業内容を、 <u>1時限毎</u> にわかりやすくご記入下さい。 ■ 講義回数についてはこの間の各種指導調査等においても半期15回以上の開講が求められています(1単位科目を除く)。本学の学年暦では、試験週を除き半期15回の講義回数が確保できるよう編成しております。 <u>講義回数の15回の中に『試験』『予備日』は記入しないでください。</u> 最終講義日にまとめとして試験を実施する場合には、「まとめ」「これまでの確認」等ご記入ください。 ■ <u>PP.22-23「ゲスト講義申請について」を参照してください。</u> 授業内でゲスト講師(2単位科目では最大2回)を招聘する予定のある科目は、当該授業回に「(ゲスト講師招聘)」の記載をしてください。 ■ 一部講義をオンデマンド授業で行う「ブレンデッド授業」を導入されており、あらかじめ第何講でオンデマンド授業を行うかが定まっている場合は、授業内容の冒頭に(オンデマンド授業)と記入してください。こちらに明記された場合は、休講申請等は不要ですので授業内で併せて履修者に周知してください。
⑥ 学ぶ上での注意		500文字以内	必須	■ 本項では学生が受講に先立ち、①講義に出席する上での注意事項(授業に臨む際に求められる態度・姿勢)や、②辞書必携など科目固有の事柄などについて、 <u>必ずご記入ください。</u> ※演習・実技系科目等で、学生に個別に消耗品の購入を求めるものは、本項に明記してください
⑦ 事前事後の学習内容と時間数		-	必須	■ 大学の授業には、事前・事後の学習が求められます。 ■ 事前・事後に学習しなければならない内容とその時間数(※大学設置基準に定める授業外学習時間(1単位当たり15～30時間)を形式的に置く必要はなく、あくまで科目に定めた学習目標の達成という観点に立って必要な時間数)をご記入ください。 ■ 時間数は授業全体の時間数を記載してください。
⑧ 本科目の関連科目		130文字以内	任意	■ 履修していることが望ましい科目や応用科目をお書きください。
⑨ 成績評価の方法		250文字以内	必須	■ <u>PP.16-17「成績評価方法の入力時の補足資料」を参照ください。</u>
⑩ テキスト		-	任意	■ テキスト、レジュメ、未定(最初の授業で指示)の3つから選択できます。 ■ テキストを使用する場合には手配に必要な情報(著者、書名、出版社、ISBNコード)を必ず入力してく

			<p>ださい。※版数など、最新版が刊行されている場合などもありますので、ご注意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ テキストとして指定されました書籍については、学生が履修登録時に自費で購入しますので、<u>授業では必ず使用してください。</u> ■ <u>指定されたテキストが絶版・品薄で入手困難になっている場合もありますので、出版状況をご確認の上、決定していただきますようお願いいたします。</u> ■ <u>テキストの価格が高価な場合も出てきております。テキストのご指定にあたっては、学生の経済的負担についてもご配慮いただければ幸いです。</u>
--	--	--	--

※これより下は、学生には表示されない項目です。

項目	字数	入力	内容
⑪備考欄	-	任意	-
⑫講義推薦図書	-	任意	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義推薦図書は、科目担当教員が当該科目の受講学生に対して、講読を推奨する図書・資料です。教員から要請があったものを図書館で購入のうえ、館内の「講義推薦図書コーナー」に配架します。 ■ 講義推薦図書は、講義科目のみでご指定いただけます（ゼミ・演習科目は不可）。1科目につき最大10タイトル（各1冊）まで指定可能です。ただし、統計書・辞書・絶版・シリーズ刊行物全体・雑誌・教科書。学習指導要領等を指定することはできません。 ■ 講義推薦図書は、ご記入いただいた出版年や版に関わらず、原則として最新版を配架準備します。出版年や版に特段のご指示がある場合は、出版年特記事項欄にその旨を記入ください。なお、出版・流通事情等により必ずしもご要望に沿えない場合がありますのでご容赦ください。 ■ 「講義推薦図書」の指定を希望される場合は、nfu.jp画面より必要事項を入力ください。 ■ 講義推薦図書は毎年度確認しますので、前年度と同じ図書を指定される場合でも必ず登録をお願い致します。

画面に表示される科目名・クラス名・科目種別・開講期・単位数の内容に誤りや不備がありましたら、美浜事務室・半田事務室・東海事務室までご連絡ください。

●連絡先は最終頁に記載しています。

■ 各学部のディプロマ・ポリシー(DP)

この項では、各学部のディプロマ・ポリシー（以下：DP）を紹介しています。

各学部・学科（専修）ごとに、科目に関する DP が設定されています。

授業科目概要の作成時、設定された DP に沿った「学習目標」の設定をお願いしております。

DP については、原則は担当科目の授業科目概要入力時に表示するように設定されていますが、事情により表示されていない場合もございます。表示されていない場合、設定されている DP が分からない場合には、各学部にお問い合わせください。

※最新カリキュラムの「カリキュラムマップ」は学園ホームページにも公開されていますが、公開の無いカリキュラムマップを参照したい場合には各学部にお問い合わせください。

■ 全学教育センター教育目標

【伝える力】

- ①相互理解のためのコミュニケーションができる。
- ②自己の考えを効果的に伝達できる。

【見据える力】

- ③幅広い視野で学ぶことができる。
- ④「ふくし」の考え方を理解し活用することができる。

【関わる力】

- ⑤地域の現場で能動的に思考・行動することができる。
- ⑥大学の学びを自身のキャリア構築と結び付けて考えることができる。

【共感する力】

- ⑦他者を共感的に理解しようとすることができる。
- ⑧他者と自身の幸福をともに追求しようとすることができる。

【地域社会に貢献する力】

- ⑨自分の住む地域で市民としての自覚をもち、何らかの形で地域に参画・貢献できる。

■ 社会福祉学部【2024 年度以前入学生】

【知識・理解】

- ① 社会福祉にかかわる政策と実践及びその両者が連関するシステムを、社会福祉を支える価値や規範とともに理解し、社会福祉の実践に活かすことができる。
- ② 現代社会に生きる人々が抱えている生活問題を、社会全体との関わりの中で理解し、問題解決に向けた実践に活かすことができる。
- ③ 様々な角度から物事を捉え、総合的に判断するための幅広い教養を備えた市民として行動することができる。
- ④ 社会福祉の学びの上に立って、職業人（企業人・教員を含む）として必要となる知識を備えて活動することができる。

【思考・判断】

- ⑤ 社会福祉に関する諸機関との連携、社会資源の調整、新たな社会資源の開発を通じて問題を解決する方法を判断することができる。
- ⑥ 地域に生じている問題を発見し、その解決に向けて新たな地域社会を開発するための方法を思考することができる。
- ⑦ 多様な価値観を受容し、よりよい共生社会を構築するための方策を他者と協同しながら思考することができる。

【技能】

- ⑧ 生活問題を抱える人々の尊厳を保持するため、当事者の立場に立ちながら、個人が持つ力を最大限高めるための支援技術を身につけ、実践することができる。
- ⑨ 国際化・情報化・高度技術化が進む現代社会の中で、多様な人々と関わるためのコミュニケーション方法を身につけ、実践することができる。
- ⑩ 人権の視点に根ざしながら、日々の生活の中で市民としての責務を果たし、市民性を発揮することができる。

■ 社会福祉学部【2025年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① 現代社会に生きる人々が抱えている生活課題について、様々な角度から捉え、総合的に判断するための幅広い教養と市民性を備えて行動することができる。
- ② ジェネラリスト兼スペシャリストとして、社会福祉に関する理論と実践を統合することができる。
- ③ 多職種連携・地域連携をはかりながら、社会課題の解決に向けて、協働して力を発揮することができる。

【思考・判断】

- ④ 人権と社会正義の観点から、多様性を尊重した共生社会に向けた方策を思考・判断し、表現できる。
- ⑤ 社会福祉専門職としての土台に基づく専門性を有し、批判的思考をもちながら思考・判断し、言語化できる。
- ⑥ 地域で生じる課題を発見し、その解決に向けて多職種・多機関と協働して思考・判断し、発信できる。

【技能】

- ⑦ 市民性と人権・社会正義が体现できるよう、自ら学び活動することができる。
- ⑧ 大学内での学習と大学外でのフィールドワークを統合させ、自らの学習テーマを追究することができる。
- ⑨ 多職種連携・地域連携の機会に参加し、多様なコミュニケーション方法を修得し、実践することができる。

■ 教育・心理学部 子ども発達学科 保育・幼児教育専修 子ども発達学部 子ども発達学科 保育専修

【子どもについての関心】

- ① 子どもの発達と生活を現実の社会との関係で多面的にとらえようとしている。

【保育・教育に関わる知識・理解・技能】 ※2024年度新入学生より①もこの項目に統合

- ② 乳児期および幼児期の子どもの発達に関わる知識を身につけている。
- ③ 保育・幼児教育の理念と制度にかかわる知識を身につけている。
- ④ 保育・幼児教育の内容と方法にかかわる知識と技能を身につけている。
- ⑤ 保育者・教育者としての幅広く深い教養を身につけている。

【思考・判断】

- ⑥ 子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を、福祉的視点からとらえることができる。
- ⑦ 保育・幼児教育の目標・内容・方法に関する理論を、実際の教育実践と結びつけてとらえることができる。

【保育・幼児教育に関わる実践的指導力】

- ⑧ 保育・幼児教育にかかわる諸理論を、実際の教育のなかで展開できる。

【保育者・教育者としての倫理】

- ⑨ 保育・幼児教育者としての倫理観・使命感をもっている。

■ 教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修 学校教育コース 子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修 学校教育コース

【子どもについての関心】

- ① 子どもの発達と生活を現実の社会との関係で多面的にとらえようとしている。

【教育に関わる知識・理解・技能】

- ② 少年期から青年期にかけての子どもの発達に関わる知識を身につけている。
- ③ 教育の理念と制度にかかわる知識を身につけている。
- ④ 教育の内容と方法にかかわる知識と技能を身につけている。
- ⑤ 教育者としての幅広く深い教養を身につけている。

【思考・判断】

- ⑥ 子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を、福祉的視点からとらえることができる。

⑦ 教育の目標・内容・方法に関する理論を、実際の教育実践と結びつけてとらえることができる。

【教育に関わる実践的指導力】

⑧ 教育にかかわる諸理論を、実際の教育のなかで展開できる。

【教育者としての倫理】

⑨ 教育者としての倫理観・使命感をもっている。

■ 教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修 特別支援教育コース 子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修 特別支援教育コース

【子どもについての関心】

① 障害や特別な教育的ニーズのある子どもの発達と生活を現実の社会との関係で多面的にとらえようとしている。

【教育に関わる知識・理解・技能】

② 乳幼児期から青年期にかけての子どもの発達にかかわる知識を身につけている。

③ 特別支援教育の理念と制度にかかわる知識を身につけている。

④ 特別支援教育の内容と方法にかかわる知識と技能を身につけている。

⑤ 教育者としての幅広く深い教養を身につけている。

【思考・判断】

⑥ 子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を、福祉的視点からとらえることができる。

⑦ 特別支援教育の目標・内容・方法に関する理論を、実際の教育実践と結びつけてとらえることができる。

【特別支援教育に関わる実践的指導力】

⑧ 特別支援教育にかかわる諸理論を、実際の教育のなかで展開できる。

【教育者としての倫理】

⑨ 障害のある子どもと関わる専門職としての正しい倫理観・使命感をもっている。

■ 教育・心理学部 学校教育学科

【子どもについての関心】

① 子どもの発達と生活を現実の社会との関係で多面的にとらえようとしている。

【教育に関わる知識・理解・技能】

② 乳幼児期から青年期にかけての人間の発達にかかわる知識を身につけている。

③ 学校教育の理念と制度にかかわる知識を身につけている。

④ 学校教育の内容と方法にかかわる知識と技能を身につけている。

⑤ 様々なニーズや特別な教育的ニーズのある子どもの指導・支援・援助にかかわる知識を身につけている。

⑥ 教育者としての幅広く深い教養を身につけている。

【思考・判断】

⑦ 子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を、福祉的視点からとらえることができる。

⑧ 教育の目標・内容・方法に関する理論を、実際の教育実践と結びつけてとらえることができる。

【教育に関わる実践的指導力】

⑨ 教育にかかわる諸理論を、実際の教育の中で展開できる。

【教育者としての倫理】

⑩ 様々な教育的ニーズのある子どもを含め、子どもにかかわる教育者としての、倫理観・使命感を持っている。

■ 教育・心理学部 心理学科 子ども発達学部 心理臨床学科

【興味・関心】

① 人間の心理や発達を社会や文化との関係の中で多面的にとらえようとしている。

【知識・理解】

② 心理学の基本的な知識を習得した上で、それぞれの進路に沿って、生きづらさを抱える人への支援方法や生涯にわたる発達、あるいは人間関係やコミュニケーションに関する専門・応用的な知

見を理解している。

【思考・判断】

③ 生涯にわたる心身の具体的な「問題」「課題」を適切にとらえることができる。

【技能】

④ 心理学の研究方法を身につけている。

⑤ 心理学の基礎的知識を土台として他者を支援する方法や、社会的場面の中で自ら発信する力を身につけている。

⑥ 心理学の学びを実社会における汎用的な能力として活かすことができる。

【探求】

⑦ 適切な研究倫理と支援者としての倫理観を備え、人間理解と心理的支援に関する問題意識に立ち、探究する力を身につけている。

■ スポーツ科学部

【知識】

① スポーツ文化を多角的視点（人文・社会・自然科学的視点）から理解している。

② スポーツの楽しさを体験的に理解している。

③ スポーツや運動の意味や価値について理解している。

【技能】

④ 人間の発達に基づいた系統的な指導方法を身につけている。

⑤ スポーツ文化の継承・発展に貢献できる力を身につけている。

⑥ 地域をはじめとした様々なスポーツや運動の実践の場面に対応できる実践力を身につけている。

【思考・判断・表現（福祉大スタンダード）】

⑦ 真実を見極める「知」への探求心を有している。

⑧ 国際社会を含む諸領域での情報の伝達・判断・理解力を身につけている。

⑨ 他者と、スポーツを含む多様な手段によって良好な関係を構築する力を身につけている。

■ 経済学部(2024年度以前入学生)

【知識・理解】

① 社会にある多文化・異文化に関する知識を理解することができる。

② 経済学、経営学の基本用語を使って、市場の仕組みや役割について説明できる。

③ 現代の経済や経営あるいは医療や福祉の課題について説明できる。

④ 社会の構成員として生活することに必要な社会的規範や組織運営に関する基礎知識を説明できる。

【汎用的技能】

⑤ 社会、経済の現象を数量的に把握したり、図式化したりして表現することができる。

⑥ ICT（情報通信技術）を用いて、わが国や海外の社会、経済に関わる情報を収集・分析することができる。

⑦ 地域経済や地域医療・福祉にある課題を認識することができる。

【態度・志向性】

⑧ 自らを律して学習や研究ができる。

⑨ 他者と協調して活動できる。

⑩ 社会通念上のルールを認識して、自他相互の利益を模索できる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

⑪ 地域社会や職場などの現場に存在する問題の解決に向けて行動をすることができる。

⑫ 学習した知識や技能をもとに、進んで学習を深めることができる。

■ 経済学部 経済専修(2025年度以降入学生)

【知識・理解】

① 社会にある多文化・異文化に関する知識を理解することができる。

② 社会の構成員として生活することに必要な社会的規範や組織運営に関する基礎知識を説明できる。

③ 経済学の基本用語を使って、市場の仕組みや役割について説明できる。

④ 現代の経済における諸課題について説明できる。

【汎用的技能】

⑤ 社会、経済の現象を数量的に把握したり、図式化したりして表現することができる。

⑥ ICT（情報通信技術）を用いて、わが国や海外の社会、経済に関わる情報を収集・分析することができる。

⑦ 経済における諸課題を認識することができる。

【態度・志向性】

⑧ 自らを律して学習や研究ができる。

⑨ 他者と協調して活動できる。

⑩ 社会通念上のルールを認識して、自他相互の利益を模索できる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

⑪ 地域社会や職場などの現場に存在する問題の解決に向けて行動をすることができる。

⑫ 学習した知識や技能をもとに、進んで学習を深めることができる。

■ 経済学部 経営専修(2025年度以降入学生)

【知識・理解】

① 社会にある多文化・異文化に関する知識を理解することができる。

② 社会の構成員として生活することに必要な社会的規範や組織運営に関する基礎知識を説明できる。

③ 経営学や経済学の基本用語を使って、営利・非営利組織における経営の仕組みや役割について説明できる。

④ 現代の企業経営や医療・福祉経営あるいはそれらの課題について説明できる。

【汎用的技能】

⑤ 社会、経済の現象を数量的に把握したり、図式化したりして表現することができる。

⑥ ICT（情報通信技術）を用いて、わが国や海外の社会、経済に関わる情報を収集・分析することができる。

⑦ 企業経営や医療・福祉経営にある課題を認識することができる。

【態度・志向性】

⑧ 自らを律して学習や研究ができる。

⑨ 他者と協調して活動できる。

⑩ 社会通念上のルールを認識して、自他相互の利益を模索できる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

⑪ 地域社会や職場などの現場に存在する問題の解決に向けて行動をすることができる。

⑫ 学習した知識や技能をもとに、進んで学習を深めることができる。

■ 国際学部 国際福祉開発学部

【知識・理解】

① 自己のアイデンティティへの認識と地球規模での文化的な多様性の背景を理解している。

② SNS などの世界につながるネットワークを活用して、情報モラルを守り、必要なデータなどを収集したり、そのデータなどを効果的に活用できる知識を身につけることができる。

③ 国際機関・国際組織の機能と役割、地球規模の現象や問題・課題に関する知識を身につけることができる。

④ 経済と企業社会のグローバル化に対する理解を深めることができる。

【汎用的技能】

⑤ 異文化環境において、適切なコミュニケーションを実践するための観察力・思考力・判断力・表現力が身につけている。

⑥ 多文化環境において、異なる価値観をもつ他者それぞれに寄り添い、つなげるコーディネーターとして行動できる。

⑦ 具体的な話題だけでなく、抽象的な話題についても自分の持てる背景知識を動員しながら、情報や意見を伝え、英語発信能力を身につけることができる。

- ⑧ 福祉・開発に関する世界の動勢をネットワークを活用して把握し、学部での学びに連結させることができる。
- ⑨ 自分の知的資源を総動員し、英語によるコミュニケーション方略を活用することができる。

【態度・志向性】

- ⑩ 文化的差異を一面的な優劣ではなく等しく理解しようとする倫理観を備えている。
- ⑪ 身近な社会において生じる文化的コンフリクトに対し、当事者意識をもって解決に臨もうとする積極性をもつ。
- ⑫ 持続可能な多様な社会を実現するべくグローバルな現場で他者と協調・協働して行動できる。
- ⑬ 多文化社会の中で日常生活やビジネスなどの場面において柔軟に対応して主体的・積極的にコミュニケーションができる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

- ⑭ 体験学習やフィールドワークなどにおける体験と学びを、グローバル人材の一翼を担えるようネットワークを介した継続的な交流、情報収集につなげていくことができる。
- ⑮ 自ら問題を発見し、これまで獲得してきた知識・技能・態度等を総合的に活用し、問題解決のために必要な情報収集・整理・分析などを通して、柔軟な思考力・豊かな創造力・集中力などを駆使して、日本語と英語で発信できる。

■ 健康科学部 リハビリテーション学科【2017年度以前入学生】

- ・医療・保健・介護・福祉の専門職として、高い倫理観と深い人間観を身につけ、支援を必要とする人やその活動を支援できる。
- ・自らの専門技術に対する向上心と研究心を持ち、それを地域社会や国際的な場で生かすことができる。
- ・リハビリテーションチームの一員としての自覚を持ち、他の医療・保健・介護・福祉の専門職と連携できる。

■ 健康科学部 福祉工学科【2017年度以前入学生】

- ・健康や福祉と情報技術との橋渡しのできる力を持ち、リハビリテーションシステム、福祉用具、スマートフォンアプリケーションを開発し、地域における健康な暮らしと自立を支援することのできる技術。
- ・福祉や自然・生態系の専門的な知識を持ち、環境設計デザインができる。

■ 健康科学部 学部共通【2018年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① 健康の概念を多面的に理解し、人の尊厳と個人や社会がもつ文化の多様性を理解することができる。

【汎用的技能】

- ② 国際的な視点と高いコミュニケーション能力を備え、情報通信技術を用いて（専門領域における）最新かつ的確な情報を収集し、これに基づく科学的かつ論理的分析と課題解決ができる。

【態度・志向性】

- ③ 健康な暮らしをサポートするための高い倫理観と深い人間観を身につけ、社会の一員として社会的責任を果たすために積極的に関与できる。

■ 健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻【2018年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① 健康と疾病ならびに障害に関して系統的な知識を有し、医療、保健、福祉の各領域における個人や集団および地域に対する介入や支援に関して理解することができる。【理学・作業共通】
- ② 理学療法士として必要な専門的知識を理解することができる。

【汎用的技能】

- ③ 健康と疾病ならびに障害について、これを適切に評価し、総合的に分析することができる。【理学・作業共通】
- ④ 理学療法士として必要な実践的解決能力を身につけ、根拠に基づく高度専門技能を安全性や倫理に配慮しながら実践することができる。
- ⑤ 医療、保健、福祉における諸課題を解決するため、高度な学問性、専門性をもって、理学療法学研

究を構成、実践、発展させることができる。

【態度・志向性】

- ⑥ 医療、保健、福祉に関する専門職の一員として役割と責任を自覚し、それらに関する問題を解決するために他の職種と協調・協働して行動できる。【学科共通】
- ⑦ 探求心、向上心をもって創造的思考を身につけるとともに、根拠に基づく論理的かつ問題解決型思考・判断を行うことができる。

■ 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻【2018年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① 健康と疾病ならびに障害に関して系統的な知識を有し、医療、保健、福祉の各領域における個人や集団および地域に対する介入や支援に関して理解することができる。【理学・作業共通】
- ② 作業療法の対象に応じた評価および介入理論に関する系統的な知識を有し、その具体的な方法を理解することができる。

【汎用的技能】

- ③ 健康と疾病ならびに障害について、これを適切に評価し、総合的に分析することができる。【理学・作業共通】
- ④ 作業療法士に必要な評価および介入の技術と臨床的観察・分析能力を有し、対象に合わせて適切に実践できる。また、自らの専門技術に対する向上心と研究心を持ち、それを地域社会や国際的な場で活かすことができる。

【態度・志向性】

- ⑤ 医療、保健、福祉に関する専門職の一員として役割と責任を自覚し、それらに関する問題を解決するために他の職種と協調・協働して行動できる。【学科共通】
- ⑥ 作業療法士として、対象のニーズに応じ、課題を達成するための方法や問題を解決するための方法について、科学的かつ論理的な思考・判断ができる。

■ 健康科学部 リハビリテーション学科 介護学専攻【2018年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① リハビリテーションを学ぶ上で必要な医療・保健・福祉の基本的知識を理解することができる。
- ② 対象者が抱えている生活問題について、社会の動きと関連づけながら理解し、問題解決に向けた実践に活かすことができる。

【汎用的技能】

- ③ 介護福祉士として多面的な生活支援を展開するための技能を修得し、実際の援助場面において活用することができる。
- ④ 福祉専門職として相談援助を展開するための技能を修得し、実際の援助場面において活用することができる。

【態度・志向性】

- ⑤ 医療、保健、福祉に関する専門職の一員として役割と責任を自覚し、それらに関する問題を解決するために他の職種と協調・協働して行動できる。【学科共通】
- ⑥ 対象者の生活状態を的確に把握し、介護福祉士および社会福祉士として適切な関わりを思考することができる。

■ 健康科学部 福祉工学科 情報工学専修【2018年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① コンピュータ、情報ネットワーク、情報セキュリティ、プログラミングなどの基礎を理解し、活用できる。
- ② リハビリテーション工学と関連領域の知識を理解し、活用できる。

【汎用的技能】

- ③ 生活支援に役立つシステム、アプリケーション、支援機器を設計でき、活用方法を提案できる。
- ④ 工学の技術を生かして、健康な暮らしをサポートすることができる。【学科共通】

【態度・志向性】

- ⑤ 情報技術および支援技術に興味・関心を持ち、生活支援の方法を考えることができる。

⑥ 相談者のニーズや社会の課題を把握するために、積極的な態度で関わることができる。

■ 健康科学部 福祉工学科 建築バリアフリー専修【2018年度以降入学生】

【知識・理解】

- ① 建築に関する基本的な設計、計画、環境、デザイン等の知識、技能を有し活用できる。
- ② 地域の自然環境を保全するための基礎的な知識・技能を有し活用できる。
- ③ 対象者が抱えている生活問題について、社会の動きと関連づけながら理解し、問題解決に向けた実践に活かすことができる。

【汎用的技能】

- ④ 福祉を考慮した住環境を設計・デザインできる。
- ⑤ 自然環境を考慮した住環境・地域づくりを設計・デザインできる。
- ⑥ 工学の技術を生かして、健康な暮らしをサポートすることができる。【学科共通】

【態度・志向性】

- ⑦ 福祉住環境や環境共生のまちづくりに関する課題を積極的に調べ、その解決策を見出すことができる。

■ 工学部 学部共通

【工学分野の知識・技能】

- ① 工学分野の各専修の専門知識・技術を習得している。

【知識・技能を活用する応用能力】

- ② 工学分野の各専修の専門知識・技術と応用能力をもつ技術者として、社会課題と関連づけながら、実践に活かすことができる。

【多様な主体と協働して社会課題を解決しようとする態度】

- ③ 社会課題を解決するために、高い倫理観と深い人間観を身につけ、社会の一員として責任を果たすために積極的に関与できる。

■ 工学部工学科 情報工学専修

【工学分野の知識・技能】

- ① コンピュータ、情報ネットワーク、情報セキュリティ、プログラミング、人工知能、IoTなどの情報技術の基礎を理解し、活用できる。

【知識・技能を活用する応用能力】

- ② 生活支援に役立つ情報システム、アプリケーション、情報機器を設計でき、活用方法を提案できる。
- ③ 情報技術の知識や技能を、利用者に使いやすい情報機器やソフトウェアの作成に活用できる。

【多様な主体と協働して社会課題を解決しようとする態度】

- ④ 情報技術に興味・関心を持ち、多様な主体と協働して生活支援の方法を考えることができる。
- ⑤ 社会課題を解決するために、新しい技術を取り入れるなど積極的な態度で関わることができる。

■ 工学部工学科 建築学専修

【工学分野の知識・技能】

- ① 建築に関する基本的な設計、計画、環境、デザイン等の知識、技能を有し活用できる。
- ② 地域の自然環境を保全するための基礎的な知識・技能を有し活用できる。

【知識・技能を活用する応用能力】

- ③ 福祉やユニバーサルデザインを考慮した住環境を設計できる。
- ④ 自然環境を考慮した住環境・地域づくりをデザインできる。

【多様な主体と協働して社会課題を解決しようとする態度】

- ⑤ 超高齢社会および気候変動対策といった社会課題を解決するために、多様な主体と協働して、福祉および自然環境に配慮した住環境整備や、建築と調和したランドスケープの設計ができる。

■ 看護学部

【知識・理解】

- ① 基礎的な看護実践を行うための能力・知識を身につけている。
- ② 保健・医療・福祉に関連する専門職種の役割を認識できる。

【思考・判断】

- ③ 対象となる人々に関心に向け、理解し、倫理観をふまえ、真摯に対応できる。
- ④ 看護専門職として多職種にわたる医療従事者と協働性を発揮できる。
- ⑤ 生涯を通じて自ら学び続けることができる。

【技能】

- ⑥ あらゆる健康状態にある対象に対して、通じ合えるコミュニケーションがとれる。
- ⑦ 基礎的な看護実践能力を修得し、対象となる人々に対して適切に対応できる。

■ 看護学部【2026年度以降入学生】

看護学部は、学生ひとりひとりが、自ら学び、考え、問う力を育み、人々に関心を抱き理解を深める感性を涵養し、個別性に対応できる看護の実践能力を備え、地域社会の保健・医療・福祉に対して真摯に対応できる看護専門職の育成を理念としており、以下の知識および能力を得た者に学位を授与します。

- ① 高いコミュニケーション能力をもち、基礎的な看護実践能力を備えた確実な実践ができる能力・知識を身につけている者
- ② 保健・医療・福祉に関連する専門職種の役割を認識し、看護専門職として協働性を発揮できる者
- ③ 地域社会の保健・医療・福祉に対して真摯に対応できる者
- ④ 自ら学び続ける能力をそなえた者

【知識・理解】

- ① 基礎的な看護実践に必要な知識と理論を理解し、活用できる。
- ② 保健・医療・福祉に関する専門職種の役割や機能について理解できる。

【汎用的技能】

- ③ あらゆる健康状態の対象に対して、通じ合えるコミュニケーションがとれる
- ④ 対象の状況に応じた対応ができる基礎的な看護実践能力を習得している。

【態度・志向性】

- ⑤ 対象への関心と理解を深め、倫理観を基盤として真摯に対応できる。
- ⑥ 看護専門職として多職種と協働する姿勢を有している。
- ⑦ 自ら学び続けようとする意欲を有している。

■ 学部毎のカリキュラムマップ（授業科目と DP の紐づき一覧はこちらから）

<https://www.n-fukushi.ac.jp/about/disclosure/curriculum-map>



■ 学習目標の入力時の補足資料

● 「④学習目標」記入に際しての注意事項

学習目標については、開講学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（以下、DP））」との整合を意識し、学習目標を設定してください。入力に際しては以下の点にご留意ください。

なお、内容については、科目開講学部の教務委員（専任教員）を中心に点検させていただきます。

1. 開講学部の DP を意識して、学習目標を 3～5 項目設定してください（1 項目 100 字上限）。
複数学部の学生が履修する場合は、それぞれの学部の DP を意識した学習目標をご記入下さい。
2. 学習目標は成績評価の指標となるため、精選してください。
3. 学習目標は、可能な限り単文で、「～できる」という行動名詞の形式で記載してください。

<記入例>

「地域福祉論Ⅰ」（社会福祉学部）

学習目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉が必要とされてきた政策的な背景を理解して、法律等に基づいて説明できる。 2. 地域が直面している福祉課題や現状について、データ等に基づいて自分の考えを述べることができる。 3. 地域福祉実践の現状について、実態を調べて課題を把握・分析し、これからの解決策を提案できる。
該当する DP
学習目標 1 → 社福 DP① 学習目標 2 → 社福 DP⑨ 学習目標 3 → 社福 DP⑥

「発達心理学概論」（子ども発達学部）

学習目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 胎生期から死ぬまでの発達の概要をおおまかに説明できる。 2. 子どもが示す「マイナスに見える行動」の中にある発達の意味について、一つ例を用いて説明できる。 3. 採用試験によく出る用語、理論、心理学者名をつなげて記憶することができる。
該当する DP
学習目標 1 → 子たつ（心）DP② 学習目標 2 → 子たつ（心）DP⑤ 学習目標 3 → 子たつ（心）DP②

「経済学」（経済学部）

学習目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なメディアで伝えられるニュースの概略が理解できる。 2. 市場経済の仕組み、国の経済状態のとらえ方について理解できる。 3. 金融や財政の仕組みや役割、国際貿易や国際金融、社会保障の問題などについて理解できる。 4. 公務員試験や企業の試験などで出題される問題のうち、経済学についての基礎問題に対処できる。
該当する DP
学習目標 1 → DP⑥ 学習目標 2 → DP①② 学習目標 3 → DP③ 学習目標 4 → DP⑫

「メディアデザイン」（国際福祉開発学部）

学習目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルメディアの特性を説明することができる。 2. 協働作業時に有効なネットワーク活用法を立案・計画することができる。 3. 目的に応じたソーシャルメディアの活用を実践することができる。
該当する DP
学習目標 1 → 国際 DP⑤ 学習目標 2 → 国際 DP⑤ 学習目標 3 → 国際 DP⑤

「健康管理学」(看護学部)

学習目標
1. 個人、家族、集団や組織における健康について理解できる。 2. 生活習慣と健康との関連について理解できる。 3. 健康管理の進め方について理解できる。 4. さまざまなライフステージや社会的役割における健康管理の実際を学ぶ。 5. セルフモニタリングを通じて自らの健康を客観的にとらえ生涯にわたる健康づくりを考えることができる。
該当する DP
学習目標 1 →看護 DP① 学習目標 2 →看護 DP① 学習目標 3 →看護 DP① 学習目標 4 →看護 DP② 学習目標 5 →看護 DP⑤

<入力画面イメージ(nfu.jp)>

学習目標の入力画面

学習目標⇒この講義を履修することで学生に身に付けてもらいたいこと(科目の意義や目的を含む)を「～できる」という記入の仕方での明確な学習目標として、箇条書きで3つ～5つお書きください。

NO	学習目標
1 *	認知心理学、知覚心理学の基礎知識を理解し、それを適切に要約できる。
2 *	認知心理学、知覚心理学の基礎的理論を習得し、それをを用いて日常的な現象の説明をすることができる。
3 *	実験的手法を用いる心理学の理論構成法の基礎を理解し、新しい問題にそれを応用できる。
4	
5	

■ 成績評価方法の入力時の補足資料

● 「⑨成績評価の方法」 記入に際しての注意事項

この項目については、科目担当者が履修者（学生）の評価を判断する際の前提となるものであり、ここに記述された評価方法と異なる基準で評価された場合、学生の評価に対する不平不満や問い合わせの原因となりうるもので、評価の実際との整合が経年の課題となっています。また、現行の授業科目概要の様式上に示されている評価項目には、規程で定められた成績評価方法と若干、相違しております。

とり急ぎ規程と整合をとりながら、以下のとおり「講義科目」と「演習科目」に分けて評価基準と項目を整理しましたので、この内容にそって、評価の配分をご入力ください。（ご担当科目が講義科目か演習科目か判別がつかない場合は本文末尾の各学部担当者までお尋ねください）

1. 講義科目を担当される場合

規程上、大学が定める試験（筆記試験、レポート試験、Web 試験、最終授業試験）をもって成績評価を行うことが原則となりますので、**期末試験の実施は必須です。**

ただし、例外的に、当該科目の特性から期末試験による評価が妥当ではないと判断される科目については、全学教務委員会の確認の上で、期末試験の伴わない成績評価（授業内評価）を認める場合があります。その場合は、期末試験による評価が行えない理由を添えて各学部の担当者まで申し出てください。

上記を踏まえ、以下の評価項目ごとにそれぞれの評価割合を入力してください。

なお、大学基準協会等の指導により、授業の出席は成績評価の前提であり、評価基準に含めることはできませんので、**出席点は、成績評価の指標にしないようにしてください。**

<成績評価の方法> 【講義科目】

項目	必須/任意	内容
期末試験（筆記・web・レポート）	必須	試験規程に則り実施される期末試験（筆記試験、レポート試験、Web 試験、最終授業試験）がここに含まれます。成績評価上、この項目に一定割合が割かれていることが必要になります。
授業内でのレポート・課題等	任意	授業内で担当教員が任意にレポート課題、課題や小テスト等を課す場合は、その評価の割合を入力してください。（ 期末試験として実施するレポート試験はここに含まれません ）
その他	原則入力不要	上記項目にどうしても該当するものがない場合のみ、割合を入力ください。
記述欄	任意	特記事項がある場合や「その他」の項目に評価割合を按分している場合はその内容を記述してください。

2. 演習科目を担当される場合

大学教務のこれまでの慣習上、授業内での取組状況をもって評価を行うことが原則となります。(期末試験の実施は必須ではありません)

ただし、当該科目の担当者の判断により期末試験による評価を加えることも可能ですので、試験実施前に行う「試験方法問い合わせ」の際に、その旨をお申し出ください。なお、期末試験を実施する場合は、試験規程の定める方法(筆記試験、レポート試験、Web 試験、最終授業試験)で実施する必要があります。あらかじめご承知おきください。

上記を踏まえ、以下の評価項目ごとにそれぞれの評価割合を入力してください。

なお、大学基準協会等の指導により、授業の出席は成績評価の前提であり、評価基準に含めることはできませんので、出席点は、成績評価の指標にしないようにしてください。

<成績評価の方法>【演習科目】

項目	必須/任意	内容
期末試験(筆記・web・レポート)	入力不要 (期末試験を実施する場合のみ必須)	授業終了後、試験規程に則り実施される期末試験(筆記試験、レポート試験、Web 試験、最終授業試験)がここに含まれます。期末試験を実施する場合は、この項目に一定割合が割かれていることが必要になります。
授業内でのレポート・課題等	原則、この2項目で100%を按分してください	授業内で担当教員が任意にレポート課題、課題や小テスト等を課す場合は、その評価の割合を入力してください。 演習科目において 授業の最終回に実施する評価レポートや評価テストなどはここに該当します。(期末試験として実施するレポート試験やテスト課題はここに含まれません)
その他		上記項目にどうしても該当するものがない場合のみ、割合を入力ください。
記述欄	任意	特記事項がある場合や「その他」の項目に評価割合を按分している場合はその内容を記述してください。

3. G 評価科目を担当される場合

本学では、成績評価指標として「S・A・B・C」、「D」の5段階評価に加え「K」(棄権)評価を用います。一方で、段階的な指標評価ではなく、一定の到達段階に至った場合に単位を付与する科目として「G 評価科目」を配置しています。この「G 評価科目」を担当する場合は「成績評価の方法」に「この科目はG・D・Kの3段階で評価します。」という文言を追記してください。

ご自身の科目が「G 評価科目」である場合は、教務委員長または教務担当事務室よりお知らせいたします。

なお、追記の無い場合は事務室にて追記させていただきますので、予めご了解ください。

■ 授業科目概要(シラバス)を変更する際に連絡の必要な資格一覧

1. 科目概要変更時の留意点

- 1) 現在 DP との整合性を紐づけた授業科目概要は基本的に大幅な変更が前提とされていません。
- 2) 地域志向科目（日本福祉大学ふくしまイスター養成に関する規程）に掲載の科目、アクティブラーニングを用いた科目、オンデマンド科目など、授業科目概要に特定の文言を記載する必要のある科目があります。
- 3) 資格科目については、資格の所管省庁に提出・届出している科目概要もあり、変更が生じることにより、場合によっては科目内容の再度届出が必要になります。
- 4) 以下 2 に示す資格に対応する科目概要を変更する場合には、事務局までご相談ください。
※資格に該当する科目のご担当の先生にはお声掛けさせて頂くことがございます。

2. 該当する資格：例

- ・教職課程
- ・保育士課程
- ・社会福祉士国家試験受験資格
- ・精神保健福祉士国家試験受験資格
- ・一級建築士又は二級建築士受験資格
- ・理学療法士国家試験受験資格
- ・作業療法士国家試験受験資格
- ・介護福祉士国家試験受験資格
- ・看護師国家試験受験資格
- ・保健師国家試験受験資格
- ・スクールソーシャルワーク教育課程
- ・スポーツプログラマー
- ・アシスタントマネジャー
- ・社会調査士
- ・初級障がい者スポーツ指導員
- ・認定心理士
- ・公認心理師資格取得のための学士課程における基礎資格
- ・中級障がい者スポーツ指導員
- ・レクリエーション・インストラクター
- ・キャンプインストラクター
- ・健康運動指導士受験資格
- ・健康運動実践指導者受験資格
- ・スポーツリーダー
- ・日本体育協会共通科目 I + II + III
- ・認定介護福祉士研修一部免除資格

■授業科目概要に特別な記載方法のある科目について

I. 地域志向科目

1. 「地域志向科目」について

本学は、COC 事業（※）採択を受け、各学部や全学教育センターの教育をいっそう地域課題に寄り添った地域志向の内容に替え、地域を理解してその課題の解決に身をもってあたる人材「ふくし・マイスター」を全学的に養成してきました。「ふくし・マイスター」養成プログラムは COC 事業終了後も継続的な養成を実施することとなっています。

そのため、「ふくし・マイスター」養成に必要な、地域に関わる学修を行う科目を各学部や全学教育センターの科目の中から厳選し、「地域志向科目」として指定します。

先生ご担当の上記科目につきまして、この「地域志向科目」としてお願いさせていただきます。

（※COC 事業）

「地(知)の拠点整備事業」(以下、COC 事業)とは、大学が自治体と協働して、地域志向の教育・研究・社会貢献に取り組み、地域の課題解決を図る文部科学省の事業です。本学は平成 26 年度、この COC 事業に「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」というプログラムを申請して採択された事業です。(本学 COC 事業ではキャンパス所在地の美浜町・半田市・東海市の諸課題の解決等にあたります)。

2. 「地域志向科目」指定にあたってのご対応

指定の科目については、以下の対応をお願いしております。

- * 科目表やシラバス上において、「地域志向科目」であることを明記し、学生に周知します。
- * シラバスの内容（講義内容や提出をもとめる諸課題など）について、地域に関する知識・理解を深める趣旨をなるべく明示的にお示しいただき、地域志向性を高めるような改編をお願いします。

3. シラバスの執筆について

全学教務委員会からご連絡します「授業科目概要ご作成の際のお願い」に基づいてご準備いただきます「授業科目概要」につきまして、さらに以下の点を点検の上でご執筆をいただきたく、何卒宜しくご願ひ申し上げます。

- 1) 「地域志向科目」のねらいを踏まえた授業に「地域志向科目」のねらいは、学生がコミュニティ※の問題を意識したり、自分の身近な「地域」への関心を喚起したりすることにあります。各「地域志向科目」の授業を通して、本学学生の市民性を育むことをねらっておりますので、授業のなかに以下のような要素を加えてください。(シラバスの内容も適宜加筆をお願いします)

* 自らも地域社会の一員であることの自覚を促すこと

* 地域の様々な問題解決にむけて考えたり、自ら参加しようという意識を促すこと

※COC でいう「地域」とはコミュニティ (community) であり、一般的に用いられる地域研究 (area study)とは異なります。

- 2) シラバスの加筆・修正 上記を踏まえ、授業科目概要の項目の「①テーマ、②内容の要約、③学習目標、④授業のながれ」の内、いずれかの項目に「地域に関する知識・理解を深める内容」であることを記述してください。学生にとって身近で具体的な地域の事例・事象から導入し、抽象度、普遍化を促していくといった内容上の改編もご検討いただければ幸いです。例えば、知多半島のデータを用い

て解説したり、事例として知多半島の地域の状況や実践事例に言及したりするなど、学修 素材や課題として取り入れるなどの工夫が考えられます。

3) シラバス改編の事例

「北欧の社会福祉」

北欧の社会福祉制度などの解説や考察であれば地域研究 (area study) である。地域志向科目としては、北欧と日本の地域との比較などを通して、学生が自分の暮らしているまちと北欧との違いなどに関心が高まるような内容に改編することが求められる。

「地域福祉論」

地域福祉として、知多半島の現状だけを教えたとしても、それは地域研究である。あるいは社会福祉士国家試験出題基準に準拠した内容だけでは地域志向科目とはいえない。地域志向科目は、知多半島のことを教えることが目的ではなく、また国家試験対策だけではない。学習テーマや教材として学生に身近な地元のことを取り入れていくことで、地域への関心を喚起し、地域課題の解決を志向したものである。

II. アクティブ・ラーニング科目

1. アクティブ・ラーニングについて

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（2012年8月）以降、学生の能動的学修（アクティブラーニング）を取り入れた授業構成や実施が求められています。

また、アクティブラーニングは大学認証評価や私立大学等改革総合支援事業等、大学における重要な要素として位置づいております。

既にほとんどの科目でこうした学修方法を確立して頂いているところではありますが、実施の根拠となる授業科目概要には明記されていない場合があります。授業科目概要の意義上、こうした学修手法が実施されていることを学生に明確に伝えていただく必要がございます。

2. アクティブラーニングを取り入れた科目についてのご対応

以下①～⑥に相当する内容を授業内で実施している場合、科目概要上において明記し、学生に周知をお願いします。

- ①PBL（課題解決型学習）
- ②反転授業（知識習得の要素を教室外にて済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
- ③ディスカッション、ディベート、討論
- ④グループワーク
- ⑤プレゼンテーション、発表
- ⑥実習、フィールドワーク

（次ページへ続きます）

3. シラバスの執筆について

「授業科目概要」の項目の「①テーマ、②内容の要約、③学習目標、④授業のながれ」の内、いずれかの項目に上記2. の内容が含まれていることを明記してください。

・シラバス記載例 下線部が該当の記述です。

内容の要約①

『家族』について考えた時、各々で違うことがたくさんある。(中略) ...誰がどのように援助するのかという家族援助の制度と方法について把握する。前半ではグループごとの調べ学習と発表を中心に、後半では講師の経験を踏まえて家族援助の事例を取り上げ、実際について解説したい。

内容の要約②

相談援助活動、専門職の概念と範囲、権利擁護の意義とその範囲、総合的・包括的な援助と多職種連携等について学習する。実践力育成のため、毎時間ペアワークやグループディスカッションなどを取り入れ、講義内容を踏まえた問題解決型の授業を基本とする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、120分である。

授業の流れに記載する例①

第4講 家族援助のキーワード（ファミリーソーシャルワーク、オエアレントトレーニングなど）を
グループごとに調べ学習・発表①

ゲスト講義申請について

日本福祉大学 教務部

《重要》2025年度よりゲスト講義実施申請は以下の通り、申請方法が変更となりました。

・講義科目、演習科目、実技・実習科目でのゲスト講義実施が可能となりました。

①ゼミ科目、特例科目*は別の申請書、ルールに従ってゲスト講義申請をしてください。

(*従来、ゲスト講師招聘回数が定められている演習・実習科目)

②シラバスが教育課程上固定となっている科目については変更前にお問い合わせください。

⇒①・②、詳細は学部事務室にお問い合わせください。

・実施後2週間以内に「実施報告」を提出していただきます。

・申請・報告はGoogleフォームによる電子申請・報告となります。

《注意事項》

●実施日の2週間前までにご提出ください。(詳細が不明な箇所は分かり次第、お知らせください)

●交通費(含む宿泊費)の支給上限は総額10,000円までです。

①これを超える場合

②授業科目概要にゲスト講師招聘の旨を記載していない場合、必ず学部教務委員の**事前承認**を得て提出してください。

1. ゲスト講義実施申請フォームの記入について

● ゲスト講義を実施する場合には、2週間前までに申請をGoogleフォームによりご提出ください。なお、詳細が不明な箇所については、必須箇所を除き空欄のまま結構です。分かり次第、お知らせください。(申請書の内容は、以前登録済みであってもすべてご記入ください。)

● 2025年度よりゲスト講師招聘については、ディプロマ・ポリシー及び学習目標との整合性の観点から

①当該ゲスト講義が開講学部のディプロマ・ポリシーやシラバス作成時に設定する学習目標とどのように関連するかを意識してゲスト講義を計画する。

②「ゲスト講義実施申請フォーム」にゲスト講義の目的(ディプロマ・ポリシーや学習目標との関連性)を記載する。

こととしています。

このため、シラバスに記載されていない場合には、事前に教務委員長に招聘許可を得ていただきますようお願いいたします。また、申請書にはゲスト講義の目的(ディプロマ・ポリシーや学習目標との関連性)を記載してください。

● ゲスト講義実施が終了しましたら、「ゲスト講義実施報告フォーム」より完了報告をお願いします。

● 交通経路について

①大学(名鉄知多奥田駅)までご来校の際に使用するすべての公共交通機関の経路と金額をご記入ください。(万が一、記入金額に誤りがある場合は大学のほうで修正いたします)

②長距離の移動に際して、新幹線、JR特急(急行料金を含む)、私鉄特急を利用した場合は領収書かそれに代わる証憑(*)が必要となります。ゲスト講師来校時に美浜事務室または教員控室までご提出ください。

③タクシー料金及び名鉄の特急料金(ミューチケット)については、支払対象とはなりませんのでご了承ください。

● 宿泊について

宿泊の対象になるのは、講義時限が1・2限で当日講義開始時間に間に合わない場合と、講義時限が6限で講義終了時間からお帰りいただくのが難しい場合のみです。

宿泊先手配については以下の2つの方法があります。

①大学の提携宿泊先(名鉄イン)をご利用の際は本学特別料金が適用となります。

予約の際に、日本福祉大学の業務で宿泊する旨、申請者が宿泊先へお伝えください。

②10,000 円を上限に(交通費含む) 申請者またはゲスト講師ご自身で近辺宿泊施設を手配してください。

いずれの場合も、ゲスト講師に宿泊費をお支払いいただき、領収書かそれに代わる証憑(*)を、ゲスト講師来校時に美浜事務室または教員控室までご提出ください。

(*)本学では領収書の他、以下を領収書相当の証憑として取り扱います。

- ・レシート (日付、金額の記載がある場合は○、印なしでも可)
- ・カード支払明細書 (本人氏名、日付、金額の記載がある場合は○)
- ・カード支払明細のコピー又はインターネット明細のプリントアウト (本人氏名、日付、金額の記載がある場合は○)
- ・銀行振込みの記録 (本人氏名、金額、振り込み先が明記されているものであれば○)
- ・宿泊施設等の明細内訳書 (本人氏名、日付、金額の記載がある場合は○)

- 勤務先への派遣依頼について

勤務先に派遣依頼が必要な方のみご記入ください。

公文書の用紙の宛名と、封筒の宛先が違う場合はその旨をご記入ください。

2. ゲスト講義実施報告フォームの記入について

- ゲスト講義を実施後、2週間以内に実施報告を Google フォームによりご提出ください。
- 実施報告にはゲスト講義による教育上の成果 (ディプロマ・ポリシーや学習目標との関連性) を記載いただく内容になっています。
- 特色ある教育実践として対外的にアピールする機会になると考えられる場合には、以下の報告項目 (任意) がありますので記載してください。

- ・ 講義内容の詳細
- ・ 講義の様子 (写真等の添付)

※記載いただいた内容や写真については大学ホームページやパンフレット等で紹介する可能性がございます。

※予め写真や内容を公開する可能性があることをゲスト講師に了解を得て記載・添付してください。

3. 申請、報告の各フォームについて

ゲスト講義実施申請フォーム

- <https://forms.gle/D0e7dLtX6L6Xab3P7>



- ゲスト講義実施報告フォーム
<https://forms.gle/7Fi hRQaR49k5PHzS6>



ゲスト講師申請書を含む本学で電子化されている申請書は以下の URL 先に格納されています。

<https://www2.n-fukushi.ac.jp/education/academics/inside/index.html> (要学内認証)

nfu.jp>ヘルプ>教職員向け「5-13. 教務関連書類」からもアクセス可能です。

■ nfu.jp のログイン方法

■ 日本福祉大学ホームページにアクセスします



① 日本福祉大学ホームページ (<http://www.n-fukushi.ac.jp/>) のトップページを表示します。

② [学生・教職員] をクリックします。

■ 学内者用メニュー



③ 学内者用メニュー上部にある「nfu.jp」ログインボタンをクリックします。

■ nfu.jp ログイン画面



④ nfu.jp のログイン画面になりますので、学内ネットワークログイン用「ID」「パスワード」を入力し、nfu.jp にログインします。

【パスワードを忘れた場合】

ICT サポートデスクへ問い合わせてください。

(問合せ先の電話番号などは最終ページをご覧ください)

■ nfu.jp ログイン後 nfu.jp トップ画面



⑤ ログインができました。

■ 前年度の科目概要複写(※必要時、科目概要入力前に実施)

■ 前年度科目概要の複写

前年度の科目概要の内容を複写して修正入力することも可能です。

その場合は[科目概要複写]ボタンをクリックしてください。

■ 科目検索画面が表示されます。

①科目検索画面が表示されます。科目概要を参照したい科目を検索するための検索条件を入力指定してください。

- 1) 開講年度
- 2) 開講科目名
科目名の一部または全部を入力してください。
- 3) 教員名(苗字のみ指定)
苗字の一部または全部を入力してください。
[一覧を表示する]ボタンをクリックしてください。

②指定の検索条件に合致する科目が一覧に表示されます。科目概要を参照する科目を指定してください。
[選択する]をクリックしてください。

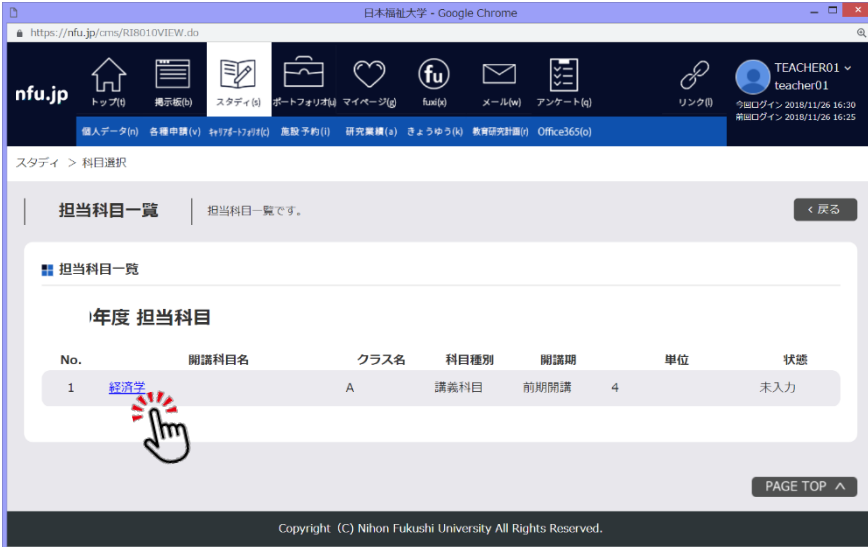
■ 検索条件に合致する科目が一覧表示されます。

③選択した科目の科目概要が科目概要入力画面に表示されます。表示された科目概要を必要に応じて修正してください。

④修正が終わったら[登録] → [OK] ボタンをクリックしてください。

■ 選択した科目の科目概要が科目概要入力画面に表示されます。

■担当科目一覧(科目選択画面)が表示されます

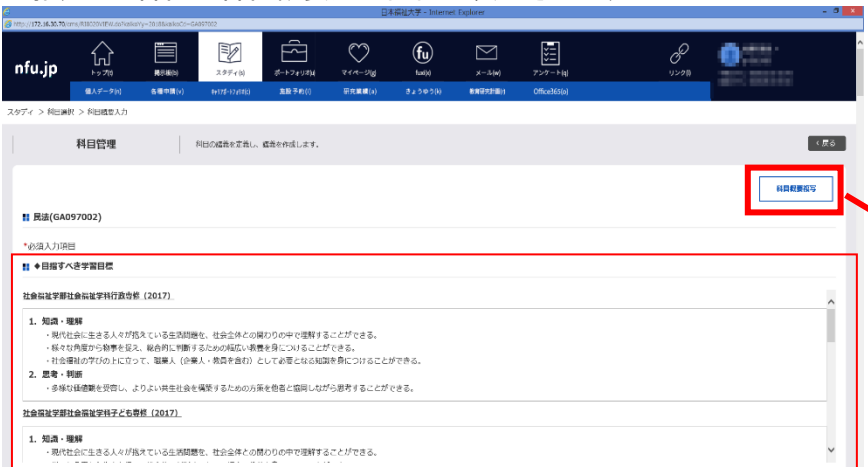


④担当科目一覧画面が表示されます。

この画面では、科目概要入力対象となる 2022 年度担当科目が一覧表示されます。

科目概要を入力する科目名をクリックしてください。

■指定した科目の科目概要入力画面が表示されます



⑤指定した科目の「科目管理」画面(科目概要入力画面)が表示されます。

項目ごとに必要な内容を入力ください。

前年度の内容を複写することが出来ます。P.18 を参照ください。

※科目に関するディプロマ・ポリシー(学部・学科・専修ごとに表示)
(2018 年度より項目追加)



※各学部・学科・専修ごとに、科目に関する DP (ディプロマ・ポリシー) が表示されるようになりました。

※表示のない場合は各学部のカリキュラムマップをご覧ください。(学園 HP 等) 掲載のないカリキュラムについてのカリキュラムマップをご覧になりたい場合は、各学部にお問い合わせください。

<学園ホームページ：カリキュラムマップ>

QR コードは右にございます。

<https://www.n-fukushi.ac.jp/about/disclosure/curriculum-map>



■ 選択した科目の科目概要が科目概要入力画面に表示されます。

各項目の ? をクリックしますと、このマニュアルの指定箇所が開きます。

◆ ◆ テーマ * (140文字以内) ⓘ

人間の意識の基礎となる「認知・知覚」に関する基本的な知識の取得

◆ ◆ 科目のねらい (1項目につき50文字以内) ⓘ

キーワード⇒2つ～5つお書きください。

NO	キーワード
1 *	認知
2 *	知覚
3	意識
4	実験心理学
5	

科目内容に関わるテーマを設定してお書きください。

内容の要約 * (1300文字以内) ⇒簡潔にわかりやすい内容

我々は、感覚器官を通して環境の情報を得、それらを正しく知覚し、これによって初めて適応的に行動することが可能となる。知覚・認知的世界は、物理的世界の単なるコピーではなく、各種の内的処理を経て得られる極めて心理的な実在である。本講義では、認知心理学領域のこれまでの研究成果を説明することにより、認知・知覚の問題が心理学研究においてどのように扱われてきたのかを概観し、人の「こころ」の問題を考える際の「認知」に関する問題の意義を論ずる。

学習目標⇒この講義を履修することで学生に身に付けてもらいたいこと(科目の意義や目的を含む)を「～できる」という記入の仕方でも明確な学習目標として、箇条書きで3つ～5つお書きください。

NO	学習目標
1 *	認知心理学、知覚心理学の基礎知識を理解し、それを適切に要約できる。
2 *	認知心理学、知覚心理学の基礎的理論を習得し、それを用いて日常的な現象の説明をすることができる。
3 *	実験的手法を用いる心理学の理論構成法の基礎を理解し、新しい問題にそれを応用できる。
4	
5	

◆ ◆ 授業のながれ * ⓘ

半年間または1年間の授業の流れや授業内容を、1時限毎にわかりやすくご記入下さい。(100文字以内)
 学年暦上、試験週を除き半期15回の講義回数確保できるよう編成しております。
 注意：15回又は30回の講義の中に『試験』『予備日』は記入しないようにしてください。」

時限	授業内容
1	イントロダクション
2	心理学における認知研究の位置づけ
3	知覚の特性1－時間特性－
4	知覚の特性2－空間特性－
5	知覚の特性3－恒常性－
6	知覚の特性4－実行知覚－
7	注意の働き
8	シーン認知 (高次視覚)
9	記憶1－記憶のメカニズム－
10	記憶2－日常記憶－
11	思考1－問題解決－
12	思考2－意思決定－
13	知覚・認知の発達
14	知覚・認知の障害
15	まとめ
16	

半年間または1年間の授業の流れや授業内容を、1時限毎にわかりやすくご記入下さい。講義回数についてはこの間の各種指導調査等においても半期15回以上の開講が求められています。本学の学年暦では、試験週を除き半期15回の講義回数確保できるよう編成しております。一部講義をオンデマンド授業で行う「ブレンデッド授業」を導入されており、あらかじめ第何講でオンデマンド授業を行うかが定まっている場合は、授業内容の冒頭に(オンデマンド授業)と記入してください。こちらに明記された場合は、休講申請等は不要ですので授業内で併せて履修者に周知してください。

【科目概要入力項目】

画面の指示に従って、以下の項目を入力してください。
 必須入力項目には* (赤色) が表示されます。

◆ テーマ(140文字)

◆ 科目のねらい (1項目50文字)
 キーワードを2～5つ (最低2つは入力)

◆ 内容の要約(1300文字程度)

科目内容の要約をわかりやすくお書きください。

◆ 学習目標

学生に身に付けてほしい事 3～5つ
 「～できる」という表現で記入をお願いします。

※PP.14-15 を参照してください。

◆ 授業のながれ

(1項目100文字)
 半期科目：15講分
 通年科目：30講分

1単位8講分の場合、9～15まで「*」など文字を入力してください。

授業内でゲスト講師(2単位科目では最大2回)を招聘する予定のある科目は、当該授業回に「(ゲスト講師招聘)」の記載をしてください。

*PP.22-23 を参照してください。

<注意！>

授業講の中に『試験』『予備日』は記入しないでください。

◆ 学ぶ上での注意 * (1300文字以内) ⑨

本項では、特に学生が受講に先立ち、講義に出席する上での注意事項（授業に臨む際に求められる態度・姿勢）や辞書必携など科目固有の事柄などをご記入ください。

私語等他の履修生の迷惑となる行為に対しては、履修資格の剥奪を含め厳格に対応する。事前に講義資料をnfu.jpにアップロードするので、概略を把握の上受講のこと。また、講義終了後はその内容を各自がまとめた上で次回講義に臨むこと。

受講に際して学生に伝えておきたいことを具体的に記載してください。
 例①: グループワークを実施するため、参加姿勢や事前学習を行なっていくことが重要となる。
 例②: 授業内で調査を行うため、PC 必携です。など
課題や質問のフィードバック方法は当該欄に記載してください。
 例: 授業で収集したコメントカードを基に質問についてのフィードバックを次回の授業冒頭で実施します。など

※事前事後の学習内容と時間数 (2018 年度より項目追加)

◆ 事前事後の学習内容と時間数 ⑨

科目については、事前・事後の学習が求められます。1単位は45時間の学習をもって認定されますが、授業で15時間行う以外に学生自らが授業外で30時間の学習を行うことが前提です。（この欄にすべての時間数を記載する必要はありません。）

時間数は授業全体の時間数を記載してください。（小数点の入り可）

例) 「事前 授業前の新聞記事講読 15時間」
 「事後 期末試験へ向けての整理・学習 7.5時間」

N	事前・事後	学習内容	時間数
1	事前	あらかじめ提示される資料の予習	15 時間
2	事後	講義で提示する課題の実施	15 時間
3			時間
4			時間
5			時間
6			時間

【事前・事後の学習内容の例】
 文献(教科書)の講読や事前課題、グループワークの振り返り、復習、期末試験対策等でおおよそ 30 時間程度の予習復習を要します。

◆ 本科目の関連科目(130文字以内) ⑨

心理学概論 学習・言語心理学 神経・生理心理学

◆ 成績評価の方法(250文字以内) ⑨

具体的な評価方法や授業態度などの加減点、留意点などがあれば記載してください。

講義内で毎回ミニレポートを課し、期末試験とあわせ評価を行う。

成績評価の方法については、授業内課題や期末試験など評価方法の詳細、授業への取り組み姿勢など加減点の方法、留意点、学修目標の到達を測る指標を学生に分かりやすく記載してください。
 大学基準協会より、授業の出席は成績評価の前提であり、評価基準に含めるべきではないとの指導があるため、**出席点等は「成績評価の方法」に加えな**いようにしてください。

◆ 学ぶ上での注意

(500 文字)

学生が受講に先立ち、講義に出席する上での注意事項（授業に臨む際に求められる態度・姿勢）や辞書・電卓必携など科目固有の事柄などをご記入ください。
 また、**課題や質問のフィードバック方法**は当該欄に記載してください。

◆ 事前事後の学習内容と時間数

大学設置基準に定める授業外学習時間（1 単位当たり 15～30 時間）を形式的に置く必要はなく、あくまで科目に定めた学習目標の達成という観点に立って必要な時間数をご記入ください。（小数点可）
 例：2 単位 15 講の場合、事前事後の学修内容の時間数は 60 時間必要です。

◆ 本科目の関連科目

(130 文字)

担当学部開講科目のうち、関連する科目を幾つかご記載ください。

◆ 成績評価の方法 (250 文字)

成績評価に際しての具体的な方法や授業態度など加減点や減点内容、留意点などを記載してください。
 ※出席という行為に加点することはできません。
 ※評価基準が「G 評価」となる場合は、G・D・K 評価で評価する旨を記載してください。

上記項目にどうしても該当するものがない場合のみ、割合をご入力ください。

試験規程に則り実施される期末試験(筆記試験、レポート試験、Web 試験、最終授業試験)がここに含まれます。成績評価上、この項目に一定割合が割かれていることが必要になります。

講義科目については必ず「期末試験」に一定の割合を割って下さい。演習科目は授業内評価が基本となります。その他の場合は「授業内でのレポート・課題等」、「その他」に割合を割ってください。なお、科目によらず、「その他」に割合を割った場合は詳細に記入してください。

・期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 50 % ・授業内でのレポート・課題等 50 %
 ・その他 0 %

特記事項がある場合や「その他」の項目に評価割合を按分している場合はその内容を記述してください。

なお、大学基準協会より、授業の出席は成績評価の前提であり、評価基準に含めるべきではないとの指導があるため、**出席点等は「成績評価の方法」に加えられないようにしてください。**

授業内で担当教員が任意にレポート課題や小テストを課す場合は、その評価の割合を入力してください。**(期末試験として実施するレポート試験はここに含まれません)**

※評価基準は 100%に収まるように指定してください。

***PP.16-17 を参照してください。**

■ 評価基準

全学統一の基準を設定し、学生に下表の通り明示しています。

評価	得点	合否
S	100点-90点	合格
A	89点-80点	合格
B	79点-70点	合格
C	69点-60点	合格
D	59点以下	不合格
K	棄権	不合格
G	得点指標なし	合格

◆ テキストについて

テキストを使用する

テキスト1
 著者: _____
 書名: _____
 出版社: _____
 ISBNコード: _____

テキスト2
 著者: _____
 書名: _____
 出版社: _____
 ISBNコード: _____

テキスト3
 著者: _____
 書名: _____
 出版社: _____
 ISBNコード: _____

レジュメを使用する
 未定 (最初の授業で指示する)

◆ テキストについて

以下のいずれかにチェック☑を入れる。

- テキストを使用する
- レジュメを使用する
- 未定 (最初の授業で指示)

※テキストを使用する場合は、

- ・書名・著者名・出版社は必ず明記してください。
- ・**テキストの発注管理のため ISBN コードをご記入ください。**
- ・指定したテキストが絶版・品薄で入手困難となっていないかどうか出版状況を確認したうえで、指定してください。
- ・指定したテキストを学生は自費で購入します。**授業では必ず使用**してください。また、学生の負担を考慮して、テキスト指定にはご配慮ください。

◆ 備考欄(350文字以内)

※事務室への連絡事項につきましては、別途メール等でご連絡をお願いします。こちらへ入力しないでください。

日本福祉大学 - Google Chrome

https://nfu.jp/cms/R18030SELECT.do

nfu.jp

◆ 備考欄(350文字以内)※事務室への連絡事項は、別途メール等でご連絡をお願いします。DPIは要しないてください。DPIはガイドライン、ホームページをご覧ください。

字番号欄 1 → OP① 字番号欄 2 → OP② 字番号欄 3 → OP③ 字番号欄 4 → OP④ 字番号欄 5 → OP⑤

※授業で必要となる消耗品は別途ご案内する「****年度消耗品・備品アンケート」で希望を出してください。希望する消耗品は事務室で基本的に準備しますが、金額や内容によって改めて担当の先生にご相談する場合があります。



科目概要の入力内容は、この[本登録]ボタンをクリックすると保存されます。
 入力途中の場合は[一時保存]ボタンをクリックすると今までの入力データを保存できます。



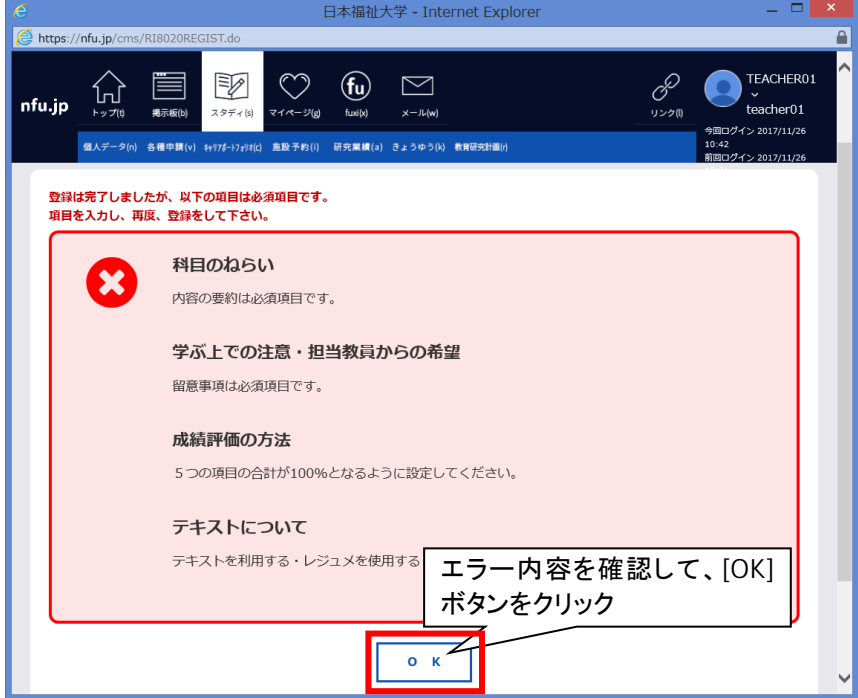
本登録には必須項目を全て入力する必要があります。途中状態で保存は、一時保存を押してください。

科目に対する教員の目標入力をする場合は「目標登録」を押してください。科目概要の入力を先に行ってください。



<注意>

■入力漏れがある場合のエラー表示画面



エラー内容を確認して、[OK]ボタンをクリック

◆講義推薦図書

講義推薦図書の有無を指定してください。指定がある場合は、推薦図書の書名・著者・出版社・推薦コメント等を入力してください。

* 講義推薦図書はご記入いただいた出版年や版に関わらず、原則として最新版を配架準備します。

* 出版年や版に特段のご指示がある場合は、**出版年特記事項欄**にその旨を必ずご記入ください。

⑨「登録」ボタンを押した後、科目概要の必須入力項目に入力漏れがある場合は、どの項目に入力漏れやエラーがあるのかを示す**エラーメッセージが表示**されます。

エラーの内容を確認して[OK]ボタンをクリックしてください。

[OK]ボタンを押すと担当科目一覧画面が再度表示されますので、エラーが出ていた科目名をクリックして、再度授業科目概要を入力してください。

※エラーが表示されていても、入力した部分は一時登録されますが本登録はされません。

※エラーが表示されなくなった時点で、科目概要の入力は完了となります。

■担当科目一覧(科目選択画面)が表示されます

日本福祉大学 - Internet Explorer
https://nfu.jp/cms/RI8010VIEW.do

TEACHER01
teacher01
今回ログイン 2017/11/26 10:42
前回ログイン 2017/11/26

スタディ > 科目選択

担当科目一覧 | 担当科目一覧です。 <戻る

担当科目一覧

年度 担当科目

No.	開講科目名	クラス名	科目種別	開講期	単位	状態
1	経済学	A	講義科目	前期開講	4	入力済(未反映)

PAGE TOP ^

Copyright (C) Nihon Fukushi University All Rights Reserved.

⑩登録が完了すると担当科目一覧画面が再度表示されます。状態の欄が「入力済(未反映)」と表示されていれば入力は完了しています。学生画面への公開(反映)は、3月上旬ごろのため、このような表示になっています。

★科目概要入力期間中であれば、いつでも科目概要の修正・変更は可能です。

■ 目標登録

■ 科目管理画面（最下部）

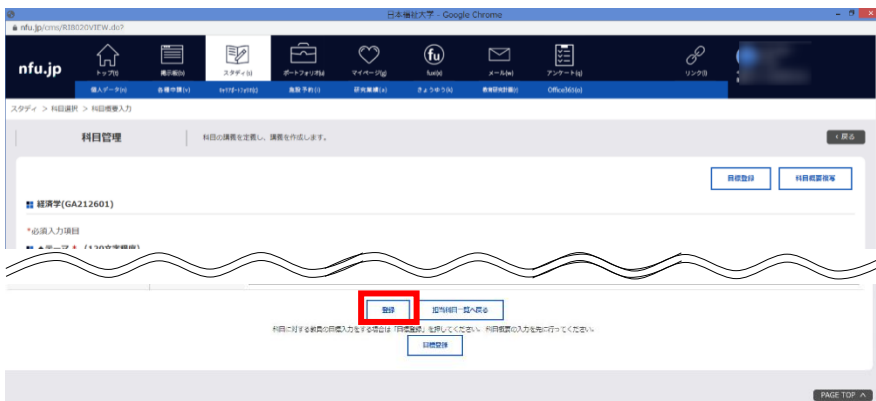
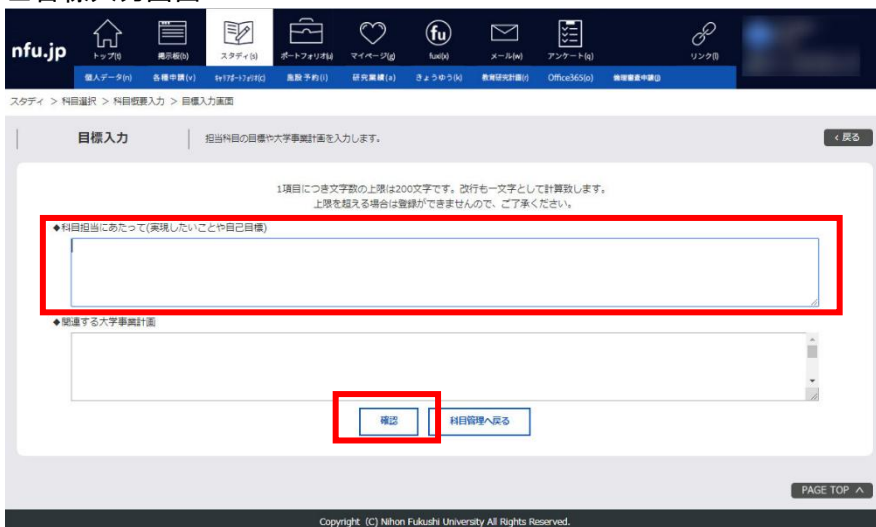


本登録には必須項目を全て入力する必要があります。途中状態で保存は、一時保存を押してください。

科目に対する教員の目標入力をする場合は「**目標登録**」を押してください。科目概要の入力を先に行ってください。



■ 目標入力画面



①担当科目管理画面「担当科目」をクリックし、「科目管理」画面の一番下にある「目標登録」をクリックします。

※複数の先生が担当している科目でもお一人ずつ入力できます。他の教員に表示されることはありません。

②上段の「科目担当にあたって」は担当に際し、1年間の目標を記載し、「確認」ボタンを押してください。

入力した目標については、成績入力時に「振り返り」を入力する際に表示され、科目の連続したPDCA サイクルを確立できます。

【専任教員のみ】

「科目担当にあたって」は「教育研究計画書」の入力時に引用・反映することが可能となります。関連する大学事業計画の項目とあわせて入力をお願いします。

③目標入力を実施したら、確認ボタンを押すと、「登録ボタン」に変わりますので、再度確認後、登録ボタンを押してください。登録後、「科目管理」の画面に移動します。

④「科目管理」の画面に移動したら、再度「登録」ボタンを押し、「担当科目一覧」に戻ってください。

■ 振り返り登録(参考:目標登録したのち、成績登録時に使用します。)

■ 科目別成績登録画面 (最下部)

※成績登録と同時に入力できませんので「成績登録前」、または「一時保存」、「本登録」が済んだ状態で入力を行ってください。

①科目別成績登録画面一番下にある「振り返り登録へ」をクリックします。

※複数の先生が担当している科目でもお一人ずつ入力できます。他の教員に表示されることはありません。

※「成績登録」の担当者でない先生は入力ボタンが表示されませんので、振り返りのご入力を希望される場合は事務局までご連絡ください。

■ 振り返り登録画面

②振り返り登録画面へ移動します。

上段の「科目担当にあたって」は当年度の担当科目シラバスを入力した際に「目標登録」をした内容が表示されます。中段・下段にはそれぞれ「講義の工夫」、「振り返り」の項目がありますので、年度当初に設定した目標、実施した授業の内容、成績評価までの一連の流れを踏まえ、振り返りを入力してください。

授業科目概要入力⇒授業実施⇒成績評価と合わせて、目標登録⇒振り返り入力を行うことで1年を通した、科目の連続した PDCA サイクルを確立できます。



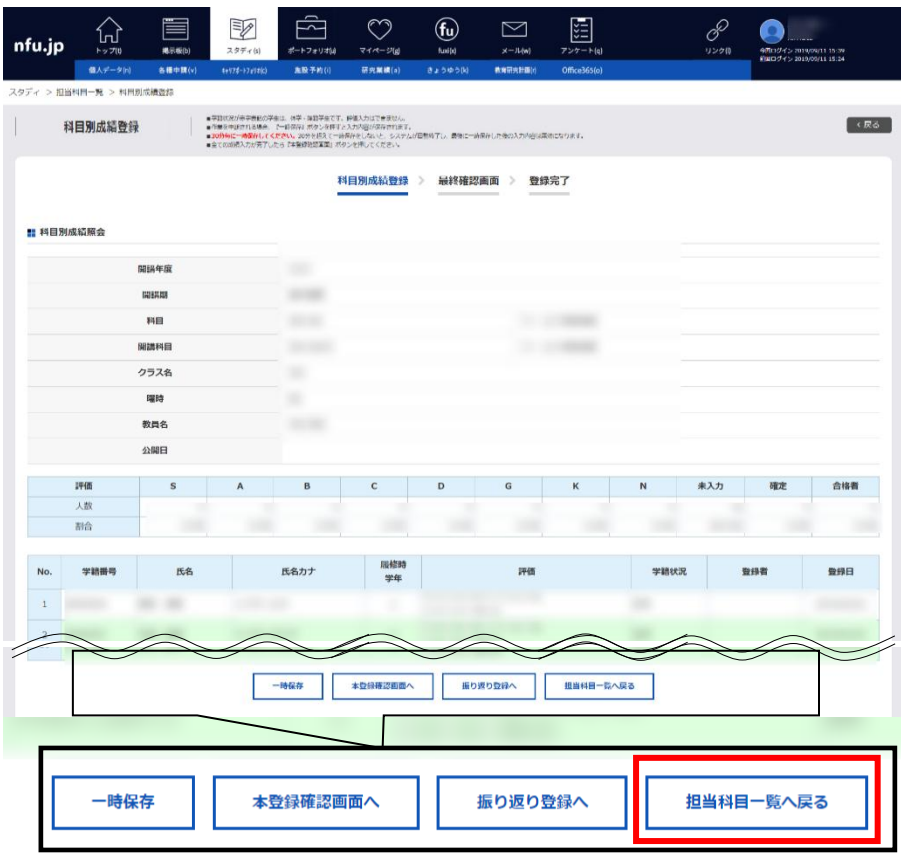
■ 振り返り確認

【専任教員のみ】

「講義の工夫」、「振り返り」は「教育研究報告書」の入力時に引用・反映することが可能となりますので、ぜひご入力ください。

③ 振り返り入力を実施したら、確認ボタンを押すと、振り返り確認画面に移動します。

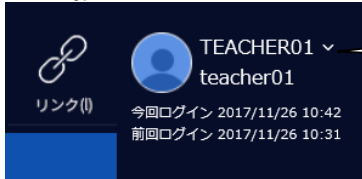
④ 再度確認後、「登録ボタン」を押してください。登録後、「科目別成績登録」の画面に移動します。



⑤ 「科目別成績登録」の画面に移動したら、引き続き成績入力することも可能です。成績入力等を行わない、または完了している場合には「担当科目一覧へ戻る」ボタンを押し、「担当科目一覧」に戻ってください。

■ ログアウトの方法

■ nfu.jp の利用画面（画面右上）



Vをクリック。



ログアウトをクリック。

■ ログアウト後画面



① nfu.jp を利用している間、画面右上にログイン中のアカウントが表示されています。アカウント名の右にある V をクリックします。メニューが展開して表示されますので、ログアウトをクリックします。

②元のログイン画面に戻ります

お問い合わせ先

※操作方法については

ICT 推進室

美浜キャンパス 0569-87-2313

内線: 2034

半田キャンパス 0569-20-0113

内線: 2704

東海キャンパス 0562-39-3811

内線: 2205

(9:00~17:00 夏期および冬期一斉休暇期間は除く)

※その他の事項については(各事務室)

美浜事務室 0569-87-2322

半田事務室 0569-20-0111

東海事務室 0562-39-3811